

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和8年3月30日

学校法人のびる学園
幼保連携型認定こども園
のびる幼稚園
園長 月野 進

学校評価委員会 佐藤眞吾 小野啓一
中島英輔 瀬川早紀 半田理美

1. 本園の教育目標

「自分で遊びを見つけられる子」

遊びは、子どもの生活の全てです。自分で遊びを見つけられる事ができたときに、子どもは初めて自己の確立の第一歩を踏み出したことになります。一人遊びでも集団遊びでも子どもが見つけた遊びを否定せず、認める事が大切だと考えます。

「他人を思いやる心」「自然を大切にすること」「自分を大切に思う心」は、自分で遊びを見つけられる子になる大切な3つです。そしてのびる幼稚園が大切に思っている「博愛」の大切な表れだと考えます。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

＜今年度 学年目標＞

0歳児…安心できる環境の中で生理的欲求を十分に満たし、安定した心を育む

1歳児…一日の生活リズムを整えながら、食事・排泄・着脱など、身の回りのことを自分でしようとする

2歳児（満3歳児）…象徴機能や想像力を広げながら、集団活動に参加する。

3歳児…基本的生活習慣を身に付け意欲的に生活し、園生活を充実させる

4歳児…豊かな生活や遊びの経験を通して色々な方法で自由に表現することを楽しむ

5歳児…集団生活の中で意欲的に活動し、体験を積み重ね相手を思いやる気持ちを育てる

＜今年度園内研修＞

子どもを中心に、人を育てる～お互いに育ち合う～

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教職員間のコミュニケーションの円滑と環境作り	B	・昨年度より活用している Chatwork については、今年度も継続して使用し、全体連絡やクラス間連絡、欠席（早退・遅刻）連絡、ヒヤリハット等の情報共有を行った。職員も操作や活用方法に慣れてきたことで、情報の発信や確認がより円滑になり、連絡漏れの防止や迅速な情報共有につながっている。また、各自の都合のよいタイミングで内容を確認できることから、忙しい保育の合間でも園全体の状況を把握することができ、職員間の共通理解を深めることにつながっている。 ・シフト勤務で保育を行っているため、時間帯ごとの各クラスの職員配置や休憩状況が分かるよう表を作成し、必要に応じてクラス間で声を掛け合いながら職員を補い合える体制づくりを試みた。しかし実際の保育では各クラスの活動に対応することが多く、クラス間で職員を回すことが十分にはできず、作成した表を十分に活用するまでには至らなかった。

			・職員同士が協力しながら園全体の保育や業務が円滑に進むよう、仕事の見える化を意識して取り組んだ。その一つとして、各クラスで「業務分担表」を作成し、その週やその日に行う必要のある仕事を記入することで、手の空いている職員が仕事を見つけて進められるようにした。しかし、各クラスの表となっていたため、園全体の状況が見えにくい面もあり、職員同士で仕事を補い合うところまでには十分につながらなかった部分もあった。園全体の仕事の状況が分かるような形に工夫し、非常勤の職員も含めて誰でも仕事内容を把握できるような表へと見直していきたい。 ・今後は職員配置の状況を把握しながらクラス間で声を掛け合い、職員全体で協力しながら園運営を進めていける体制づくりを進めていきたい。また、園全体で子どもを見守るという意識を共有しながら、より円滑なコミュニケーション環境づくりに努めていきたい。
2	園内研修に取り組む 「子どもを中心に、人を育てる ～お互いに育ち合う～」	B	・園内研修の一環として、毎月主任会議を行い、園全体の保育や行事についての確認や情報共有を行った。会議を継続して行うことで主任間での連携や共通理解を図ることができた。 ・夏季休業期間には、園の教育目標を踏まえた園内研修を園長が実施し、本園が大切にしている保育観や教育目標について改めて確認する機会を持つことができた。職員一人ひとりが園の理念を再認識し、保育の方向性を共有することにつながった。 ・外部講師として孫ちゃんす先生を招き、職員コミュニケーションに関する研修およびグループコーチングを実施した。研修を通して、職員同士の関わり方や対話の大切さについて学び、互いの考えを尊重しながら意見交換を行うことの重要性を再認識する機会となった。 ・一方で、子どもの遊びや保育内容について深く話し合う「遊びの会議」は、日々の業務や行事準備等の関係で十分に開催することができなかった。 ・今年度の年長児は、5月に行われたロータリークラブのサッカー大会をきっかけにサッカーへの興味・関心が高まり、子ども同士の関わりが活発に見られるようになった。仲間と協力しながら遊びを広げていく姿も多く見られたが、そのような子どもの姿を保育の視点から振り返り、職員同士で共有し深めていく機会は十分とは言えなかった。 ・今後は、日々の保育の中で見られる子どもの姿や遊びの広がりをもとに職員同士で話し合う機会を設け、「遊び」を中心とした保育について共に考え、学び合う園内研修を進めていきたい。

3	安全管理	A	・今年度も看護師が常駐し、子ども達の怪我や病気の対応を行うとともに、毎月の保健だよりの発行や、怪我・病気の状況の集計と共有を継続して行った。特に、毎月の怪我や病気の統計をまとめることで園内の状況を把握し、その結果をもとに遊び研修班とも情報を共有しながら、安全な保育環境づくりについて検討を行った。怪我が多く見られる場所や状況を確認し、園庭の地面が滑りやすい場合には水をまくなど、具体的な環境改善につなげるよう取り組んだ。 ・園児の人数把握については、日々の確認を徹底して行うよう職員間で意識を高めてきた。登園状況の確認を丁寧に行い、登園の確認が取れない場合には速やかに家庭へ電話連絡を行うなど、安全管理の基本となる出欠確認を確実に行うよう努めた。 ・避難訓練については、係を中心に「どのような状況で起こった災害なのか」という想定を考え、その状況の中で職員自身がどのように対応するべきかを考えながら訓練を行った。訓練後には対応について振り返りを行い、どのような対応が適切であったか、改善すべき点は何かを確認し、次の訓練へ活かすようにしている。想定を様々に変えて訓練を行うことで、その場面ごとにどのように行動すべきかを職員自身が考えるきっかけとなり、防災への意識を高めることにつながった。 ・防犯対策として不審者対応訓練を実施し、子どもの安全を守るとともに職員自身の安全も確保できる対応について確認を行った。不審者とすぐに対峙するのではなく、距離を取りながら状況を見極め、安全を確保しながら回避する方法について考える機会となった。今後も訓練や話し合いを重ねながら、より安全で実効性のある対応方法について検討を進めていきたい。 ・安全計画に基づき、継続して避難訓練や安全管理に関する取り組みを行い、子ども達が安心して園生活を送ることができる環境づくりに努めていく。
---	------	---	---

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
B	子ども達の姿は多様であり、一人一人に寄り添った保育を行うためには、人的・物的・空間的・時間的な環境を整えていく必要がある。今年度も様々な課題に向き合いながら、職員同士で情報共有や意見交換を行い、より良い保育環境づくりに努めてきた。園だけでは解決が難しい問題も増えてきているが、保護者や地域、関係機関とも連携しながら解決の糸口を見出していきたい。 当園の特徴であるチーム保育により、一人の子どもを複数の目で見守ることができる利点があり、子どもの姿や成長を様々な視点から見取ることができている。今年度は年長児が

	5月のサッカー大会をきっかけにサッカー遊びに夢中になり、子ども同士で誘い合いながら遊ぶ姿や関わりが多く見られた。こうした子どもの主体的な遊びや関わりを大切にしながら、今後も子ども達が十分に遊び込める環境づくりを進めていきたい。 園内研修においては、遊びを中心とした保育についての研修を行ってきたが、日々の保育や行事準備等もあり、遊びの会議を十分に開催できない場面もあった。その中でも、子どもの姿をもとに保育を振り返り、より良い保育の在り方について職員同士で考える機会を持つよう努めていきたい。今後、研修の時間を確保しながら、保育の質の向上につなげていきたい。 安全管理の面では、看護師を中心に怪我や病気の状況を毎月集計し園内で共有することで、怪我の起こりやすい状況を把握し、安全な環境づくりに生かすよう取り組んできた。また、防災面では避難訓練を実施する際に、どのような状況を想定した訓練なのかを係で検討し、その場面で職員がどのように対応するべきかを考えながら訓練を行った。訓練後には対応について振り返りを行い、次の訓練へ生かすことで、防災に対する意識を高めるとともに、職員一人一人が状況に応じて考え行動する力を養う機会となった。 近年は長時間保育を利用する子どもが増え、園で過ごす時間が長くなっている子どもも多くなっている。子ども達が安心して過ごせるよう、保育教諭との関わりを求めて甘える姿も多く見られ、職員は一人一人の気持ちに寄り添いながら丁寧な関わりを心掛けて保育を行っている。一方で、多くの子どもが長時間園で過ごす状況の中では、安全面への配慮や保育体制の工夫、行事準備などについても調整が必要となっている。限られた職員体制の中ではあるが、職員同士が協力し合いながら子ども達の安全と安心を第一に考えた保育に努めたい。また、園内での会議や話し合いの時間を十分に確保することが難しい場面もあるが、限られた時間の中でも情報共有や保育の振り返りを行い、職員間の連携を図っていきたい。 保護者への情報発信については、園だよりやクラスだよりに写真を多く活用し、子ども達の園での様子を伝える工夫を行った。保護者が園生活に関心を持っていただけるよう、「おうちえん」園ブログやSNS等を活用し、園の様子や魅力を外部に発信する取り組みを継続している。 出生数の減少に伴い園児募集は今後も課題となっている。園の様子や魅力を知ってもらうため、園ブログやSNS等を活用した情報発信を継続して行っている。今年度は体験保育の実施が難しい状況であったが、今後は体験保育や園庭開放などの子育て支援の機会について検討し、地域の方々に園の良さを伝えていけるよう取り組んでいきたい。 今後も日々の教育・保育を大切にしながら職員一人一人が自己研鑽に努め、幼保連携型認定こども園として全職員が共通理解を図りながら連携し、より質の高い教育・保育の実現を目指していきたい。
--	---

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…あまり成果がなかった E…成果がなかった。）

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	教師間の連携	<職員間の連携を深め、協力して保育を行う体制づくり> 近年は長時間保育を利用する子どもが増え、園で過ごす時間が長くなっている子どもも多くなっている。来年度は職員数の減少も予定されているため、これまで以上に職員同士の連携を大切にし、互いに支え合いながら保育を行う体制づくりが必要となる。そのため、職員間のコミュニケーションを大切にし、協力して保育を進めていく。

		・互いに心地よく感じる挨拶を心掛ける。 ・社会人としての礼儀やマナーを大切にする。 ・ポジティブな言葉や表情（笑顔）、声のトーンを意識する。 ・前向きな言葉や意見交換を心掛ける。 ・「誰かがやってくれる」ではなく、「自分も関わる」という意識を持つ。 ・仲間のことを考えながら報告・連絡・相談を行い、円滑に業務を進める。 ・実践している職員を尊重し、自分にできることを考え協力体制を築く。 ・子どもの安全を守るため、職員同士の声かけを大切にする。 ・園全体や他クラスの様子について情報共有を行い、意見交換できる機会をつくる。 ・職員育成を意識し、互いに学び合える関係づくりを大切にする。
2	園内研修	「子どもを中心に、遊びを大切にした安全で安心できる保育～職員と保護者が共に育ち合う園づくり～」 子どもの姿を中心に保育を振り返りながら、子どもが遊びを通して主体的に育つ姿を大切に、職員同士が学び合いながら保育の質を高めていく。また、保護者と連携しながら子ども達の成長を共に支えていくことを大切にする。 日々の保育や行事準備、長時間保育への対応などにより会議時間の確保が難しい場面もあるが、限られた時間の中でも保育を振り返る機会を工夫して設け、職員同士の学び合いを大切にしていく。 【研修の視点】 ・子どもの成長を第一に考え、笑顔を大切にした保育を行う。 ・子どもの気持ちに寄り添い、信じて待つ保育を心掛ける。 ・園の教育目標「自分で遊びを見つけられる子」を意識し、遊びを大切にしたい保育を進める。 ・保護者と共に子育てをしていく姿勢を大切にする。 ・職員同士のコミュニケーションを大切に、チームで保育を進める。 ・感情的になり過ぎず、冷静に子どもと向き合う。 ・命を預かる仕事としての責任感を持つ。 ・0歳児から6歳児までの発達を理解し、保育に生かす。 ・保育の振り返りや意見交換の機会を工夫して設ける。 ・園全体で子ども達を見守る「チーム保育」の良さを再確認する。
3	安全管理	子ども達が安心して園生活を送ることができるよう、安全管理を徹底するとともに、職員全体で安全意識を高めていく。 ・園児の人数把握の徹底。 ・遊具点検など保育環境の整備。 ・保健連絡や健康管理の徹底。 ・子どもの人権を尊重し、言葉の使い方や関わり方に十分配慮する。 ・守秘義務を守り、個人情報の取り扱いに注意する。 ・子どもの特性を理解し、一人一人に合った関わりを行う。 ・保育の中で「ヒヤリ」「ハット」を感じた場面を大切に、子どもと一緒に安全について考える。 ・保護者への啓発や協力依頼を行い、安全意識を高める。 ・保健衛生面の適切な対応を行う。 ・遊具使用時の注意点や指導内容について職員間で共通理解を図る。

4	保護者との連携	保護者との信頼関係を大切にしながら、子ども達の成長を共に見守り、支えていく。 ・日々の挨拶や会話を大切にし、保護者との信頼関係を築く。 ・園での子どもの様子を丁寧に伝える。 ・園だよりやクラスだより、「おうちえん」などを活用し、子どもの姿を分かりやすく発信する。 ・子どもの成長や課題について保護者と共有する。 ・保護者からの相談や悩みに寄り添い、子育てを支える。 ・保護者と協力しながら子ども達の健やかな成長を支えていく
5	子ども主体の遊び・環境	子ども達が自分で遊びを見つけ、主体的に関わることができる環境づくりを大切にし、子どもの興味や関心を生かした保育を進めていく。 ・子どもの興味や関心を大切にし、遊びが広がる環境を整える。 ・子どもが自分で考え、選び、遊び込める環境づくりを行う。 ・子ども同士の関わりや協力する姿を大切にする。 ・保育教諭は子どもの姿をよく見取り、必要な援助を行う。 ・園庭や保育室の環境を工夫し、遊びが発展するようにする。 ・子どもの主体的な遊びを通して、豊かな経験や学びにつなげていく。

6.学校関係者評価委員会の評価 全体評価 A

1. 教育目標は、人間としての大切な部分です。特に「博愛」3つの心は重要です。続けて下さい。認めて褒めて下さい。
2. 学年目標も年齢に沿って考えられています。
- 3 (1) 各職員が「働くは^{はた}傍を楽にする」ことと考え、行動することに、お互いに気持ちよく仕事ができると思います。また、お互いに何でも言える環境作りも大切だと思います。他を認めることにも、つながると思います。
(2) 研修の機会は大事にして下さい。主任会議はよいですね。学年会議も沢山持てるといいですね。テーマを決めての研修は大切だと思います。また、外部講師の研修は良かったですね。
(3) 看護師の常駐は素晴らしいですね。大変でしょうが、子ども達のためには有難いことです。外遊びの時も先生方がよく確認していて有難いです。よく様子を把握しています。避難訓練、色々な条件を考えて行うことが大切ですね。大変ですが、大切にして下さい。防犯対策は近所のよく通る方、近くの会社の方、業者の方達に協力を得て、何かおかしいことがあったら知らせてもらう対策をとったらどうか。老人会もありますね。
4. 長時間保育については、ご父母の方の理解を得て何とかしたいですね。先生方の負担が増えて大変です。
のびる学園は素晴らしい学園です。どんどん情報発信を進めて下さい。また、保護者にも宣伝してもらうよう呼びかけていただけるといいですね。
- 5 (1) 職員間の連携は大切です。コミュニケーション作りは大変ですが、お互いに協調性を持って働ける職場作りに励みたいですね。「働くは傍を楽にする」ということで。
(2) 子どもに寄り添うことこそ第一です。認め合い、励まし合い、褒め合いながら…。時には、悪いことはしっかり叱って下さい。(叱った理由を明確に話し、子ども達に理解させることが大切)「問題が起こった時が教育のチャンス」
(3) 先生方の安全管理はよいと思います。
(4) 保護者との信頼関係を保つことは一番大切です。何かあったらよく話し合いましょう。
(5) 「自分で遊びを見つけられる子」が目標です。そのためには、先生方のアドバイスが必要です。